



東京都
デントゾーン 渋谷

近藤 圭
先生

今回のアイテム

エヌ・エックス・スリー / 接着性レジンセメント

時代のニーズに答えるセメント

近年、口腔内へのメタルフリー治療を希望する患者が増えており、必然的にセラミックスやレジン系素材が主な選択肢となる。

では、臨床において、それらの接着にどのような材料が適しているのでしょうか。一般的に求められる接着用ルーティング・セメントの要件としては、操作性、物性、審美性、良好な接着力、安定した長期予後などが挙げられる。

今回紹介する症例は、シェードマッチングが難しい内壁性窩洞のオールセラミックスインレーである。内壁性窩洞は、マージンが咬合面上に設定されるため、変色した場合のセメントラインが目立ちやすい。さらに、咬合咀嚼による負荷が大きく、耐摩耗性が必要とされる。これらの条件をクリアし、良好な予後が得られるであろうと考え、エヌ・エックス・スリーを選択した。

エヌ・エックス・スリーのイントロキットを解説すると、デュアルキュアタイプとライトキュアタイプ、2種類のルー

ティング・セメントとトライインジェルがパッケージングされている。また、接着手順が理解しやすい手引きが添付され、準備時間短縮や治療ステップを明快にしている。

ライトキュアタイプはラミネートベニア装着時の「時間との戦い」から解放してくれる。自分のタイミングで重合をコントロールできるため、正しいシーティング、丁寧なセメントインゲと操作時間間に余裕を持たせることが可能である。

デュアルキュアタイプは、光重合器の照射深度を超える症例に適しているが、操作時間も適度な上、セット時のフロワーが良好で、圧接したときの感触は他社製品と比較して軽く感じられ、皮膜の厚みによる歯冠修復物の浮き上がりも解消されている。

イントロキットのルーティング・セメントには3色のシェードが用意され、それらと同色のトライインジェルを用いることで、装着後の色調変化をシミュレーションすることができる。憂慮すべき

はトライインジェルとセメントの色調の mismatch であるが、エヌ・エックス・スリーではどうであろう。

重合直後のルーティング・セメントと、24時間経過後のシェードを比較してみると、直後と24時間経過後では若干の差異が認められた。また、トライインジェルと重合直後のシェードも若干異なるが、24時間経過した時点において観察すると、両者は同じ色調となり、違和感が認められなかった。

これは、一見誤解されそうであるが、色調を長期に予測するという意味からは、誠に正しい設計と感じられた。

接着システムとしては、2ステップに分類されるオプチボンド XTR が用意されている。使用時の印象は、アドヒージブの匂いが気になるものの、塗布後にバキュームを使用することで解消できる程度であった。プライマー、アドヒージブともに液はサラツとして液だまりを回避しやすく、使用感は良好である。また、オプチボンド XTR を使った症

例では間接法だけでなく、直接法においても知覚過敏等の疼痛は観察されていないため、象牙細管の封鎖性は良いと思われる。

装着後の余剰セメントは探針やスクレーパーなどで一塊として除去することができたが、後に症例写真で確認すると残留セメントが残っており、拡大鏡下にて慎重に除去した。歯冠色とマッチした審美性の高い材料ほど、億劫がらず細心の注意を払い除去するようにしたいものである。

また、歯冠修復物内面のルーティング・セメントは長期的に安定して高い審美性を示し、強固に歯質と接着しているものと考えられる。

半年以上にわたり多用した感想となるが、エヌ・エックス・スリーはハイエンドユーザーが求める基本的要件を満たしているだけでなく、システムをシンプルにまとめていることから、多くのユーザーが容易に使いこなすことが出来る材料であると感じられた。

トライインジェルとのシェードを比較
上段:トライインジェル 中段:セメント重合後48時間経過 下段:セメント重合直後
シェードは左からイエロー、ホワイト、クリアー



術前。右下4、5アマルガム除去前



セラミックインレーの窩洞形成



セラミックインレーセット



術後2週間の状態